



小 論 文

(120分)

人 間 文 化 学 部

地域文化学科

人間関係学科

国際コミュニケーション学科

注 意 事 項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子および解答冊子の中を見てはいけません。
2. 問題は3学科共通です。
3. 問題は2題で、1ページから7ページまであります。
4. 解答開始後、解答冊子の表紙所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入しなさい。表紙にはこれら以外のことを書いてはいけません。
5. 解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に記入しなさい。解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがあります。
6. 解答冊子は、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。解答冊子を持ち帰ってはいけません。

問題 1 次の文章を読んで、後の問い(問 1, 2)に答えよ。

岡田美智男・松本光太郎(編著)『ロボットの悲しみ コミュニケーションをめぐる人とロボットの生態学』(新曜社, 2014年)を一部改変

問 1 本文中の下線部①②③で著者はロボット(機械, 機器等を含む)と人との関わりを「痛々しい(く)」と表現している。著者がそのように表現するのはなぜか, 本文の内容に即して述べよ。字数制限は設けないが, 解答用紙の枠内に収めること。

問 2 本文で著者がロボットと人との関わりについて主張したのと同種のは、あなたの日常にも多様な形でみられるだろう。著者の主張をふまえつつ、あてはまる現象(直接体験したものでも、間接的に見聞きしたものでもよい)を紹介しつつ、それについてあなた自身がどのように考えるのかを述べなさい。字数制限は設けないが、解答用紙の枠内に収めること。

問題 2 次の文章を読んで、後の問い(問 1, 2)に答えよ。

三浦雅士『身体の零度』(1994年, 講談社)を一部改変

(注1) 鉄道線路をまたぐ橋。

(注2) フランス文学, 映画批評などを専門とする。小説家としても知られる。

問 1 下線部について、「奇怪な思い違い」とはどのようなことか。本文でとりあげられている具体例をまじえ、句読点を含め 100 字程度で説明せよ。ただし句読点も字数に入れ、1 マスに 1 字使うこと。

問 2 本文では子どもが周囲の環境をどのように理解していくか述べられている。これをふまえ、子どもの世界と大人の世界のどちらが「豊か」とあるとあなたは考えるか、あなたなりの「豊か」の意味を明らかにしたうえで、自身の経験をまじえ、論ぜよ。字数制限は設けないが、解答用紙の枠内に収めること。